

Title	訪問録得：日蓮曼荼羅の證文と庶民史料
Sub Title	
Author	武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1952
Jtitle	史学 Vol.25, No.4 (1952. 9) ,p.41(474)- 41(474)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白録
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19520900-0041">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19520900-0041</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

汪氏世家新安、當唐末五季干戈紛擾之時、衣冠散處諸邑之大川長谷間、率皆即深而潛、依險而居、迨宋興百年、無不安土樂生、於是豪傑始相與出耕而各長雄其地、以力田課僮僕、以詩書訓子弟、以孝謹保墳墓、以信義服鄉閭、室廬相望爲聞家、子孫取高科登顯仕者、無世無之、而汪氏尤其章章者也。

(23) このところの意味がよくわからない。徐氏宗譜には開説所生世裔併壯申上とあり、共にその意味を解し難い。

### 訪問餘得

——日蓮曼茶羅の證文と庶民史料——

静岡縣興津町の舊家手塚氏を訪問のところ近世庶民史料が數百點保存されて其の若干を拜見した。中でも京都の人が日蓮の三枚繼ぎの大曼茶羅を質物として金六兩を三年間年一割半で借り、遂に其の返済に窮したとて金百兩を以て賣渡している享保元文頃の證文兩三通があつた。恐らく身延山に持参して其の極めを依頼し、更に江戸への旅金のために預け入れたものである。當時の金百兩と云えば今日は何十萬圓にも當る大金で、曼茶羅は保存されているとか。そこでこれが眞筆であれば問題はないが、偽筆と知つてお賽銭の多寡で和尚が極めを書いたとすれば其の冥罰を、京人は詐僞で天罰をまかり蒙つたことであらう。本春身延山で日蓮の遠忌やらが行われたと聞いたから、これに因んで紹介する譯である。なお同家の庶民史料については子息、

東海大學史學科在學の章美君が整理して學界に發表される豫定である。(二七、五、一一)

賣渡し申御本尊まんなら證文之事

一日蓮上人御筆

壹幅

代金百兩者 但し小判也

右之代金只今不殘慥に請取賣濟申所實正也、然上は此御本尊に付親類兄弟之義不及申横合より少たり共構無御座候、勿論拙者代々所持致候本尊に而有之に付、此度無據恩借返済に差詰り御無心申上賣濟申、向後貴殿思召可被成、爲後日證文仍而如件

元文四巳未三月九日(1739)

賣主 ○京御幸町錦上ル町

仲田宮内 印

證人 ○甲州萬澤村

望月與右衛門 印

手塚彌兵衛殿

(武田勝藏記)